

マタイ福音書講話（6）

マタイ 3章 13～17節【イエス、洗礼を受ける】

13節「そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところに来られた。彼から洗礼を受けるためである。」

イエス様は群衆の中に、つまり罪人たちの群れの中に自分を紛れ込ませます。多くの人の罪の中に自らの身を沈めるのです。そうやって列に並んで自分の順番が来るのをじっと待ちます。最も崇高な神が最も低くなり、最も聖なる神が罪の中に身を委ね、一番先におられた方が最後に並び、人に仕えられる方が人に仕えるために来られ、罪人の列に立って、罪人と同じようになって洗礼を受けられます。何という驚くべきことでしょう。神は神の側に自分を置くことをしません。人の側に立ち、裁かれる者の側に立ち、教えられる者の側に立ち、手を置かれる者の側に立ってくださいます。こうやって神は人と同じ者となります。人を自分と同じ者にするためです。こうして人々の神観はひっくり返されます。私たちがまるで自分の横にいても忘れてしまうくらいに神はその栄光を隠し、私と同じようになって下さるのです。実際、群衆は気がつきませんでした。ヨハネは彼ら群衆にこういいました。「あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。」（ヨハネ 1：26）これがキリスト教です。天が地の中にやってくる。神が罪人の中にやってくる。そして世の終わりまで共に過ごし、地に留まって下さいます。天と地がキリストによって一つになる。すべてがキリストの中で和解し、飲み込まれ、一つに結ばれるのです。

14節「ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。『わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。』」ヨハネは自分の前に現れたイエス様を見て驚き、洗礼を授けるのを辞退しようとしています。ヨハネは言ったのです。「あなたは洗礼を授ける側であって、受ける側ではないのですよ。どうかこちら側に来て下さい。」

15節「しかし、イエスはお答えになった。『今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、われわれにふさわしいことです。』」この「正しいこと」というのは「神の救いの計画にとって正しいこと」であり「洗礼を受けること」です。洗礼は罪がある人が受けるものなのに、罪のないイエス様がなぜ洗礼を受けられたのでしょうか。

①【人類と連帯するため】

なぜ「私にふさわしい」といわず「われわれにふさわしい」といったのでしょうか。「われわれ」というのは「同じ仲間」に対して用いる言葉です。つまりイエ

ス様は完全に人間となったばかりではなく、罪人となり、罪人の側に立って下さるということなのです。彼はこうして徹底的に罪人の側にとどまります。それは十字架の時でもそうです。彼は最後の最後まで罪人と共にいます。つまりあなたの横にいます。神は神の立場を捨てて、完全な人間になったのです。それはあなたを救うためです。モンテスキューは「真に偉大なものは人間の上にあるのではない、人間と共にある」といいましたが、キリストの偉大さは、遙か天にいまして畏れ多いことではなく、私たちのような罪深い者と共にいてくださることです。降誕祭は神が人となった祝いですが、洗礼祭は神が罪人となって下さったことを祝う祭りです。私はここを読む度に深い感動を覚えます。罪のないイエス様がなぜ洗礼を受けられたのかがここにはっきりと現れています。神は人間とすべてを分かち合い、徹底的に人間と《連帯》しようと思われたということです。神は人となって人間性を連帯しただけでなく、人間特有の罪や死をも連帯されます。キリストは人間の罪と死を負い、分かち合います。洗礼は死を意味しています。実際イエス様は十字架の苦しみのことを洗礼といわれました。「私は受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、私はどんなに苦しむことだろう」(ルカ 12:50)。キリストが洗礼を受け、水の中に沈んだことは、全人類が体験する死を同じように体験することを象徴しています。洗礼の場面は、十字架の場面の先取りです。十字架というフィナーレを垣間見させるものであり、十字架の雛型なのです。十字架の場面でもイエス様は、罪人たちの罪・死・呪い・罵声の渦の中に投げ込まれます。イエス様の上ですべての人の罪が乗せられます。洗礼はイエス様にとっては死の始まりであり、それは十字架の上で完成します。この方は罪があったので洗礼を受けたのではなく、私たちの罪を分かち合うために洗礼を受けられたのです。十字架の上ですべての人の罪を負ったように、全人類の代わりに洗礼を受けたといってもいいでしょう。彼がそこまで私たちと同じようになったのは、同じものにならないければ私たちの罪と死を受け取れないからです。ちょうど汚れが水に触れることによって、自らの汚れを水に移すようなものです。

●淀川キリスト教病院理事長の柏木哲夫先生が御茶ノ水クリスチャンセンターで「つなぐ、つながる、つながれる」という題で講演をされました。「つながれる」といって、束縛される、自由が奪われるというマイナスイメージがあるが、風はつながれているから高く上がる。つながっていることが大切なこともある」と先生は言っておられます。イエス様につながる、教会につながる、そうでないと天高くに上れないのです。また「がんの治療期とつながり方」という話では、①初期の治療期には上から励ますことも必要だが、②再発した進行がんでは下から支えること。③そして、末期がんでは横から寄り添うことが重要であると言われます。「2500名を看取りましたが、確実に言えることは、人は寄り添いさえすれば、ちゃんと死んでいける力を持っているということです。」と言

っておられました。

寄り添う、共にいる、ということがいかに人間に勇気と平安と力を与えるかという例だと思います。救い主の名「インマヌエル」とは「神はわれわれと共におられる」という意味です。救いとは「何かを与える事」であるよりも、「共にいてくださること」なのです。

②【新しい洗礼の秘跡を立てるため】

罪のないイエス様が洗礼を受けられた第二の理由は、新しい洗礼を制定して古い人間を新しい者に再創造するためでした。ちょうどイエス様が最後の晩餐を受けられて、その席上で古い過越祭を終わらせ、新しい過越祭を制定されたのとよく似ています。イエス様が洗礼を受けた時と、ほかの人が洗礼を受けた時の違いは何でしょうか。それはイエス様の時だけ、天が開け聖霊が鳩のように降ったということです。それは、イエス様が、ヨハネが行った水による洗礼と、聖霊と火による洗礼の二つを一つに合わされた新しい「水と霊による洗礼」を創造されたことを教えています。「火」は聖霊のイメージだと思ってください。イエス様がニコデモに「誰でも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることは出来ない。肉から生まれた者は肉である。霊から生まれた者は霊である。」(ヨハネ 3:5~6)といわれたのもこれと同じであって、この「新しい洗礼」を意味しています。

キリストは死んで復活したのですが、その恵みに与らせる手段として神は洗礼を定めたのです。洗礼は死と復活のかたどりです。水はそのために最適でした。旧約の時代、水は命を与えるものでありながら、同時に命を滅ぼす道具として用いられました。ノアの箱舟が洪水を通過して新天地に着いたこと、紅海の中でエジプト人が死に、紅海を通過して約束の地に渡ったこと、これらすべてのことは洗礼によって神の国にたどり着くことのかたどりでした。ヨシュアと共に契約の箱がヨルダン川を渡るとき、水が分かれたことは、キリストと共に死の川を渡ると死に支配されないことを現しています。また、エリヤの衣でヨルダン川を打つと水が分かれたことは、キリストを着た者は死の流れに溺れないことを現しています。こうして神様は私たちが土に葬るのではなく、水の中に葬るのです。水を三回かけられるのは、キリストの三日間の葬りをかたどっています。こうしてあなたは水の中で死に、キリストと共に葬られます。水から上がるとき、その人はキリストと一体になり、キリストの復活に与るのです。こうして洗礼を受けた人は、新しい人になるのです。だからまず、キリストも水の中に入らなければならなかったのです。神は人間をキリストと一体にするという方法で救い、再生させるのです。

15 節「そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。」

古代の祈禱文はヨハネが洗礼を受けた時の恐れを神学的に表現しています。

・「先駆者ヨハネは、キリストにいました。どうしてわたしは手を伸ばして、万物を保つ方の頭に触れることができます。あなたはマリアから生まれた者ですが、永遠にいます神であることをわたしは知っています。地上を歩いておられますが、セラフィムによって讚美されています。僕は主人に洗礼を受けることを学んでいません。」

・「わたしは誰の名によってあなたに洗礼を授けましょう。父の名ですか。あなたはご自分の中に父を持っておられます。子の名によってですか。あなたは人体を取られた方そのものです。聖霊の名によってですか。あなたは口から信者に聖霊を与えられます。現われた神よ、われらを憐れみください。」

16節「イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。」

なぜ、すぐ水から上がるのでしょうか。それはイエス様の三日間の葬りを象徴しているのです。死はイエス様を三日間しか閉じ込めておくことしかできなかったのです。三日の後にあの方はすぐに復活なさいました。悪魔と死の敗北です。

「そのとき、天がイエスに向かって開いた。」

アダムの罪の故に天の国（エデン）は閉じられていましたが、今キリストの洗礼によって閉じたエデンが開きました。マルコは「**天が裂けて、霊が鳩のように御自分に降って来るのを御覧になった。**」（1：10）と書いています。ここでは天が裂けますが、十字架では神殿の垂れ幕が裂けます。

「**イエスは神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを、御覧になった。**」

聖霊は鳩の姿でキリストの上に降りました。神キリストは自ら聖霊を持っているのに、なぜ聖霊が降ったのでしょうか。これは正確に言うならば、神キリストに降ったのではなく、彼が受け取った人間性の上に降ったのです。洗礼を受けた者は聖霊を受けることを見せるためです。

聖霊はペンテコステの時、「炎の舌」の姿で現れましたが、ここでは鳩の姿で現れました。その時々により姿を変えるのは意味があるからです。この時、聖霊が鳩の姿で現れたのはノアの洪水を思い出させるためです。その昔ノアの箱舟の時、鳩はノアのもとにオリーブの葉を運び、洪水の終わりを告げました。今、聖霊はイエス様の上に降り、イエス様こそ世界の難破を救う者、神の国の新しいのちであることを証したのです。こうして同質な者の上に同質な者が下ることを通して、この方こそ人類に聖霊を下す方、聖霊によるバプテスマを施す者であることを証したのです。

私たちは洗礼によって、キリストの体となりました。キリストの体とされた者の上に、聖霊は安心して降ってきてとどまります。あなたが今、イエス様を主

と告白しているなら、あなたは聖霊を受けているのです。奇跡を行うだけが聖霊のしるしではないのです。告白も聖霊が共にいるしるしです。それゆえ自分がキリストの体であることを確信してください。キリストの体なら、あなたは決して死にません。キリストの体ならあなたの本国は天にあります。

●「さあ、ノアの時代の洪水よりも好ましく、優れた洪水（洗礼）を見なさい。昔の洪水の水は人類を殺しましたが、ここでは洗礼の水が、洗礼を受けられたキリストの力によって死者を生き返らせたのです。」（4世紀のコンスタンチノーブルの聖プロクル）

17節「その時、『これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。」天から聞こえた声は、父なる神様の声でした。父なる神様と聖霊様はこの日、共に現れてイエス様を証しました。父と子と聖霊という三者が一度に現れるのはここが初めてです。これは「お前は私の子、今日、私はお前を生んだ。」（詩編1：7）と同じ意味だと言われています。永遠の初めから父から生まれていたイエス様が、なぜ今日「お前を生んだ」と父に言われるのでしょうか。それは正確に言うならば、神キリストに言われているのではなく、彼が受け取った人間に言われているのです。洗礼を受ける者は誰でも、神の子として生まれ、神があなたの親になり、聖霊を受けることを教えているのです。だからあなたの親は神様です。あなたは神によって生まれたのです。ヨハネも同じようにいいます。「この人々は血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである」（ヨハネ1：13）この親は完全な愛をもっている親です。だから必要なものは必ずくださるので。私は今まで神様が親になったというイメージがあまりなかったのです。でも神様に本当に生んでもらったのです。神様が親なら、子は親と同じ命をもらっているはず。だから私たちは神の命をもっています。だからあなたは死なないのです。洗礼ってすごいですね。